いずみさの昔と今 第297回

「暦と疫病の神、牛頭天王②」

目に見えない疫病の流行や災害を神（鬼）や怨霊の怒りと認識した古代・中世の人々により信仰された牛頭天王ですが、卜部吉田家による素戔嗚との習合、祇園社の法師系陰陽師（僧でありながら陰陽道知識を持つ者）や修験者らによる大日如来・薬師如来との本地垂迹、陰陽師による陰陽道神化などを経て暦・方位の神として信仰されるようになります。

祇園社編纂の「祇園社略記」には「神家には祇園を素盞烏尊と称す。仏家には是を牛頭天王となし、暦家には天道神と配す。」とあり、祇園の祭神を吉田家はスサノオ、祇園感神院は牛頭天王、暦を作る者は天道神として祀っていたことがわかります。この「天道神」は陰陽道で吉である方角を神格化したものでその方角に鎮座する神のことです。暦家は、役行者を祖とする陰陽道の家である賀茂氏といわれています。すなわち天道神＝牛頭天王であり、暦を作成する陰陽師たちにより暦の吉神として祀られたことがわかります。さらに陰陽師は前回紹介したように疫病を予防する祭も実施したため、疫病の神としての神格も牛頭天王に加えました。つまり暦神＝天道神＝牛頭天王＝疫神ということになります。ではいつ頃牛頭天王が疫病の神・暦・方位の神とされたのか、それは鎌倉時代に遡ります。

鎌倉期成立の「簠簋内伝」の牛頭天王譚には「賤女を助けるために『急急如律令』と書いた桃の木の札を持たせた」ことや「五節の祭礼（五節供のこと）は調伏した巨旦の死体に見立てて供物を食す」ことなどが記されており、堺市や泉南市で出土する遺物に刻まれた「急急如律令」や九条家文書中の「五頭天王五節供」との関連性がうかがえます。更に「簠簋内伝」の牛頭天王譚に続いて「天道神方　歳徳神方　八将神方…」と暦、方角の禁忌が記載されています。天道神は牛頭天王、歳徳神は頗梨采女、八将神（八王子ともいう）は大歳・大将軍・大陰・歳刑・歳破・歳殺・黄幡・豹尾の八柱の神で牛頭天王の子供を指します。これらの神は全て居る方角が年や季節ごとに変わり吉凶を表すため、方位を示す別名に用いました。例えば大将軍の場合、三年間同じ方位に居続けるのでその方位を三年塞がりとも言いました。これら時期ごとに移動する神を遊行神、行疫神とよびました。行疫神の呼び名のとおり、時期ごとに移動し吉凶を司り、疫病を防ぐあるいは呼び込むと考えられたため、特定の方位に対して神を祀り、疫病を防ぐ祭を行うようになりました。

疫病の神を暦・方位の神と結びつけるこの「簠簋内伝」（夏季特別展にて展示中）は陰陽師や法師系陰陽師、修験者達によって書写され全国へ広まりました。先月号で紹介した泉南で出土した木簡などは12～13世紀頃と鎌倉期以降、同様に九条家文書の「五頭天王節供」「大将軍ノ五節供」も鎌倉期であり、中世の牛頭天王が暦・方位・疫病の神へ転じた痕跡は日根荘やその周辺にも見受けられます。中世には疫病・暦・方位の神として祀られ様々な場面で人々を守護した牛頭天王は、江戸時代に家相説にも転用され、吉凶方位を司る神としても崇められ、現在ではスサノオとして人々を見守っています。

▲江戸時代の役行者・安倍晴明・空海図（展示中の「新撰呪咀調法記」より）

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日　月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料　無料

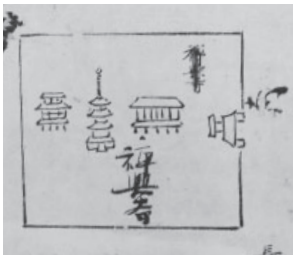
日本遺産・中世日根荘を巡る⑭

～絵図編（13）「禅興寺」～

JAPAN HERITAGE
日本遺産

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち ―中世日根荘の風景―」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介します。

問合先　文化財保護課



◀日根野村絵図に記された「禅興寺」

善光寺地蔵堂▶

約700年前に描かれた日根野村荒野開発絵図の「禅興寺」は、日根荘と隣り合う長滝荘にあった古代の大寺院（廃寺）です。禅興寺と大門の文字とともに楼門、三重塔、金堂、講堂の建物が四角の枠囲いの中に描かれています。

禅興寺は、推古20（612）年、新羅人の金麻蘇邇が開設した説（「泉州志」）と、新羅国大臣恵基が開創した説があります。中世に入ると、藤原摂関家渡領で九条家も摂関就任期に禅興寺を支配した時期があり、日根荘立荘・開発当初の鎌倉時代には、政所が置かれていました。室町期には、守護被官の中原氏（のちの日根野氏）が管理しました。

▲「禅興寺金堂跡」石碑（明福寺門前）

絵図の立派な伽藍も、戦国末、織田信長の紀州攻めで焼失したことにより、現時点では正確な位置や範囲はよくわかっていませんが、長滝地区の清福寺、明福寺、永福寺がその後身と伝えられ、そのうち明福寺境内には金堂跡の石碑が建てられています。他にも、明福寺のすぐ近くに禅興寺ゆかりの善光寺地蔵堂や旧庄屋宅の庭に寺の礎石と思われる大型石が置かれています。また過去の発掘調査では、寺の痕跡は明確に発見されていないものの、飛鳥時代までさかのぼる古代瓦が数点発見されています。

※絵図の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用（原本は宮内庁書陵部所蔵）

【訂正】　広報8月号20ページ「日本遺産・中世日根荘を巡る⑬」に間違いがありましたので、次のとおり訂正します。　（誤）「天平年間の」→（正）「天正年間の」